

「東京オリンピックが終わった」

2021年08月10日

東京オリンピックがやっと終わった。新型コロナのパンデミックの中で行われた東京五輪は諸々の問題を起こし続け、五輪の経営、運営の醜悪さを露わにした。五輪は、安倍晋三元首相の「原発事故はアンダーコントロール」という嘘から始まった。彼の五輪に反対する人たちは「反日」であるという言葉には唖然とした。時期は、熱中症が猛威を振るう7月、8月になった。この時を「温暖な気候で、スポーツに適する時期である」と嘘をついた。背後には、この時、米国では人気のあるスポーツイベントがないようで、米国に忖度した訳である。さすがに、マラソン・競歩は札幌開催となった。竹田恒和氏は招致買収疑惑が持たれて、退任した。この件は、疑惑を晴らすことなく、五輪招致は金に絡んでいると、多くの人々が改めて認識した。五輪は新型コロナ感染が広がり、一年延期された。組織委員会の森喜朗元会長は女性蔑視発言で辞任を表明せざるを得なかった。演出を総括する佐々木宏氏が出演者の容姿を侮辱する発言で辞任し、音楽担当の小山田圭吾氏は過去のいじめ問題で辞任し、ショーディレクターの小林賢太郎氏もホロコーストを笑いの種にしたことで解任された。これらの辞任、解任劇は、日本人がいかにも、人権意識、歴史認識が希薄であるかを世界に晒すことになった。社会で有用な人材として用いられている人々は人を押しのけて上り、人権意識の低い人たちが多いからではないかと思わされる。

東京五輪を開催する目的も、当初は「東日本大震災からの復興五輪」と言っていたが、「コロナウイルスに打ち勝った証しとしての五輪」に変わり、今や、「世界の団結を象徴として実現する」とか「若者や子どもに夢や希望を与える機会」などと、取って付けたような目的にすり替えられてきた。五輪開催の目的が提示できないのである。

新型コロナの感染が広がり、五輪の再延期・中止の声が7割になりながらも、強引に一部三県を無観客で開催すると決めた。開催中、緊急事態宣言下であり、自粛が求められたが、新型コロナは爆発的に広がった。政府は、五輪とは関係ないと言うが、自粛を呼びかけられても、五輪で騒いでいれば、感染拡大の原因でないはずがないではないか。今や、感染者は入院できず、自宅待機という手段しかない悲惨な状態に陥った。

国際オリンピック委員会（IOC）の傲慢な姿勢に強い憤りを持つ。IOCは要するに、スポーツイベント屋であるが、招致のためにお金を貢がせ、五輪放映権を莫大な金額で売り渡す。イベント屋は利益を参加競技者に還元するものであるが、IOCは全て、自分の懐に入れ、丸儲けである。「ぼったくり男爵」とは、よく言ったものだ。拝金主義の塊で、それを、「多様性と調和」とか、「平和の祭典」などと美しい言葉で、ごまかしている。

冬季五輪開催を目指したノルウェーでは、IOCから下記のような要求があったと報道されている。①空港は別の専用口を作り、バッハ会長到着時は、滑走路で歓迎の式典をせよ。②開会式前に国王と面会させ、その後、カクテルパーティーを開け。その費用はノルウェーが負担せよ。③IOC委員の車移動に一般車両の進入を禁止し、専用レーンを作れ。④ホテルでは季節の果物とケーキを持って、支配人が挨拶に来い。⑤ホテルのバーには、深夜も延長営業をし、コーク、ワイン、ビールをいつでも飲めるように用意せよ。何様だと思っているのか。あきれんばかりである。ノルウェーは開催立候補を止めた。

日本選手団は多くのメダルを取ったようだが、彼らは恵まれた環境で養成されていたので当然であろう。メダルラッシュがIOCの罪深さを免罪し、政府の無策を不問にする訳ではない。莫大な税金をつぎ込む五輪の三度目の開催はあってはならない。